

仙人通信 117 鹿俣山 (1636m)

鹿俣山(かのまたやま)は、上州武尊の西側に位置し剣が峰と尼の禿山との中間に位置する山で、冬はスキー・夏はラベンダーで有名な山である。

今回は、玉原湿原手前のレストランハウスから玉原湿原 玉原越 ブナ平 ゲレンデ 山頂 ラベンダー畑を廻る、標高差 400mのコースである。

レストラン横には、黄色いギオン・キツリブネ・アキノキリンソウが、又紫色のヨツバヒヨドリ・ツリブネソウ、白いイタドリ・フジバカマ等が出迎えてくれた。

5分程で湿原の入り口である。昨夜の雨で濡れて滑る木道を進むとイネ科のコウボウが茶色の実を付け秋の始まりを告げている。白い小さな花のウメバチソウ・紫のノアザミが今盛りである。15分ほどで、ブナ林を玉原越に向かう。ブナ平への分岐を過ぎると湿原の源流の沢である。白いヤマヒヨドリ・シシウド、紫色のトリカブトが咲き誇る。

10分で玉原越に出る。ここからは尾根のコースが始まる。道の両側にはアキノキリンソウや小さな花を付けたオトキリソウ・ガクビソウ等と黄色の花街道だ。30分程で1302mの長沢山の山頂である。木々が生い茂り、この時期は視界が利かないが3等三角点の山である。ブナの周囲には都ザサであろうか膝丈の笹・そしてブナの林である。深呼吸してウッドピッチを心行くまで吸い、恵まれた環境に感謝である。緩やかな斜面の登りが続く、葉のあまり大きくないコバナフユイチゴの房が光輝いている。よく見ると可愛い放射状の白い花を付けたオクモミジハグマが。そして赤く色づき始めたジャコウソウである。

嬉しさで3脚を取り出して、日陰にもめげずシャッターを切った。ブナの緩やかなコースであり、ぬかるみには木道が置かれ、なんととも贅沢だ。20分ほどでブナの根にコケが覆い正に地蔵様を思わせるブナ地蔵だ。地蔵の周囲には黄色いニガナの花が自生し、自然に手を合わせてしまう。更にブナ林を30分ほど進むと、ゲレンデである。白いヤマハハコの群生と紫色のヨツバヒヨドリの群生、背の高いギオンが一面に咲き誇っている。

眼下には尼の禿山の手前に紺碧に輝く玉原ダムが望める。高度を上げて行くと、谷川連峰の山々・稲包山・草津までもが望める(サイコー)。30分程ゲレンデを詰めて、林に入り20分程で下山コースの分岐、更に20分ほどで山頂である。山頂は期待した展望はないが、本山塊の剣が峰から時計周りに赤城・子持・榛名・妙義・草津白根の山までが確認できる。ただただ天候に恵まれた事に感謝である。下山はシャクナゲ群生のピークを越えてゲレンデを下る。ピンクのヤナギランの先には、ラベンダーは最後の花を付けている。小さなリフト避けのトンネルを抜けて銅金沢から玉原湿原の手前に向けての下山である。ブナ林で深呼吸し、多くの花に会え、のんびりと5時間(21000歩)の山旅となった。(h 25.8 . 26)

玉原ダムと禿山



山頂



ヤナギランとラベンダー

